

月刊

語学のススム新聞

12月号

KANATA 2019 Terry Sasaki & his friends Art Show



こんにちは、スタッフのRieです。先日、東京で行われたカナダからの友人達の展示会に行ってきました。こちらの展示会は、バンクーバーの5つ星ホテル、Pan Pacific Hotelで30年以上 Art Galleryを持つ、Terry Sasakiさんが主催するカナダ国内外の様々なジャンルのクリエイター達が集まる Art Show です。私がカナダに居た頃、自分の陶芸の作品を日系人のお祭りのクラフトブースに出したりしていたのですが、その初めての時に Terry さんにお会いしました。これもかれこれ30年近い前です。(time flies...笑)



ましてライフスタイルです。展示会の方にお話を戻しますが、KANATA という名称は CANADA の国名の語源で、先住民の言葉で「村」という意味だそうです。それに日本語の「彼方」を掛けて、「彼方と彼方を繋ぐ」という思いがあるのだそうです。今回は去年ミスってしまった Reception(ここでは歓迎会)に間に合い、ファッション・ショー、詩の朗読、ポリネシア風ダンス、歌等を楽しみ、その後は、ガラスアート、木工造形、イラスト、陶器、ナチュラルソープ等、友人達のそれぞれの作品をじっくり見てまわりま

にタイへの買付けに同行しましたが、信頼出来るお店等をよくご存知なのですよ。チェンマイに行った時も日本人の方でデザインから仕立てまでやっている high-end (高級) で良質な物を売っている (でも日本円からするとリーズナブルな) お店をご紹介頂き、私もコートを一着購入しました。最近の Terry さんは、長年磨き抜いたデザインのセンスを生かしたデザイナーとしての活動が一番多いように感じますが、東南アジアには年に3回ほど行って、その度に日本に寄って美味しい物を食べているようなので、なんだか羨



した。ファッション・ショーは皆さんプロのモデルさんと言うわけではないですが、とても素敵でした。(KANATA のアートのサインの前にモデルさん達と並んで一番右にいらっしゃる方が Terry さんです。) 私にとってはカナダの友人に久しぶりに会い、作品を見る! というのが第一の目的ですが、今回新しく参加した方々のアート作品もバラエティーに富み、とても楽しかったです。(写真は全部の作品は載せてないです) 来年も是非伺いたいのですが、なんと、今まで使っていた展示会場が今年で使えなくなってしまうようです。来年の為に場所を探しているようですが、こういった小規模の、ギャラリーとして使えて、リーズナブルな貸し空間をご存知の方いらっしゃいませんか?是非、どこかでまた続けて頂きたいと思っています。

Rie



元気が出る!! 今月のおすすめの一冊



あっという間にもう12月。学生さんの中には推薦入試などで英会話力を問われる方も少なくないようです。当校でも何名かの高校3年生が、通常よりも少し早めに行われる「英語力重視方式」を採用している大学入試対策のため、真剣に集中してレッスンを受講しています。その受験本番が12/24。今この記事を書いているのが11/25ですので、あと残り1ヶ月のラストスパートです。多少つらくても、勉強することによって最大の効果を上げられれば、辛さが充実感や楽しさになっていくのではないかと思います。そこで今月号では、メンタリストDaiGo著『科学的に正しい英語勉強法』(DHC出版)に面白い学習法が紹介されていたので、「辛いのは我慢できるけど、最大の効果をあげたい」という受講生の

効果がある、という研究結果が出ているそうなのです。現在学生さんではない方は、学生時代を思い出していただきたいのですが、「勉強をしているところを見たことがないのに、なぜか試験では抜群の成績を取る同級生」っていませんか? もしかしたら、この記事を読んでいるあなたが、その当人なのかもしれません。このタイプの優等生は、ほぼ確実にこの「想起学習」の習慣を身につけているからなのです。彼らは通常の復習(ノートや教科書を開いての復習)はせず、休み時間や帰りの電車の中で授業内容を「思い出している」のです。

「そういえば、今日の数学の授業はどんなことをやったっけ?」「世界史の時間に聞いた話、面白かったな」などと、ぼんやりとその日の授業で学んだことを思い出しているのです。何かを学んだ後、その内容を想起することで、学習内容は記憶に残り易くなるのです。この想起練習効果を英語学習に活用(応用)した方法の中で、一番キツイ、けれども効果的なメソッド、それがディクトグロス(Dictogloss)と呼ばれる、特殊でハードなディクテーションです。早速、その手順を見ていきましょう。

のために、最強の学習法をご案内致します。DaiGo氏は「想起学習」こそ最も効果のある学習法だといいます。この想起学習とは「忘れた頃に、(悔しい思いをしながら)思い出す方法」で脳科学的には最も



現は長期記憶に残りやすく、ライティングとスピーキング能力の向上に効果があったことがバスク大学などの研究機関で明らかになっています(pg. 102)。

また、この学習方法を開発したWajnryb氏によれば、ディクトグロスを以下の1~5の順で説明しています(1990年)。

1. 教師は短い文章をノーマルスピードで2回読む。
2. 学習者は文章を聞きつつ、既知の語彙やフレーズをメモする。
3. 学習者は各自で書き取ったバラバラの単語やフレーズをつなぎ合わせ、文章の再構築を試みる。
4. 各グループの目標は文法的に正しく整合性のある文章を再構築することである。よって、再構築された文章はオリジナルと同一である必要はないことに留意する。
5. 各グループで再構築した文章を互いに比較、分析し、話し合い、精査することで、自身のグループの文章をより完成に近づける。

DaiGo氏の提案しているディクトグロスと、Wajnryb氏のディクトグロスとは微妙に違いがあるように、ディクトグロスには様々なバリエーションが考えられます。自分のニーズに合わせて、自分が伸ばしたい分野の教材(素材)を使うといいと思います。日常会話能力向上のためなら映画のシーンを、状況説明能力や意見陳述能力向上のためなら英検2次テスト問題等のストーリーが簡潔にまとまった素材を使ってみるのもいいのではないのでしょうか。



ただですね…、やっぱり、効果的な勉強法はある意味ではつらい勉強法になってしまいますよね。効果があるのは、インプット中心ではなく、脳にとってハードな「想起」を利用したアウトプット中心の学習…。理屈はわかるけれど、もう少しハードルの低いものはないの? という方。DaiGo氏のオススメは、スマホアプリを使った学習法で、まずは学習開始のハードルを下げましょう、とのこと。そのスマホアプリの中で

も特にオススメなのがTEDICTというTEDを素材にしたディクテーションをするためのアプリです。ご存知のように、ディクテーションというのは、聞き取った英語を書き取るという、世界的に広く使われている英語の勉強法です。リスニングの強化はもちろん、ライティングやスピーキングの向上にも効果があるとされています。

このTEDICT、TEDの動画を視聴しながら聞き取った英語を入力していくのですが、ディクテーションが間違っていると先に進めないようになっていきます。正しく聞き取り、書き取れるようになるまで、繰り返し練習できるのです(pg. 177-178)。当校でも「21st CENTURY READING」というTED TALKSを素材にした教材を使っています。英語でのディスカッションが大学の必須科目なのでという大学生や、プレゼンテーション力をつけたい社会人の方にオススメですよ。

さて、堅い話はこれくらいにして、年末の忙しい中でも、読めばホッとできる…、そんな小説をご案内したいと思います。

1冊目は、大山淳子著『猫弁 天才百瀬とやっかいな依頼

まず、映画のシーンを2回、視聴します。セリフを聞き取りながら、単語のメモを取ります。見終わったら、単語のメモを手掛かりに、自分が聞いたセリフの全文を復元するのです。セリフの一部(単語)を元に、その全体を想起しなければいけないわけですから、通常のディクテーションよりも高い負荷がかかります。そのぶん、こうして学んだ英語表現は長期記憶に残りやすく、ライティングとスピーキング能力の向上に効果があったことがバスク大学などの研究機関で明らかになっています(pg. 102)。

また、この学習方法を開発したWajnryb氏によれば、ディクトグロス

1. 教師は短い文章をノーマルスピードで2回読む。
2. 学習者は文章を聞きつつ、既知の語彙やフレーズをメモする。
3. 学習者は各自で書き取ったバラバラの単語やフレーズをつなぎ合わせ、文章の再構築を試みる。
4. 各グループの目標は文法的に正しく整合性のある文章を再構築することである。よって、再構築された文章はオリジナルと同一である必要はないことに留意する。
5. 各グループで再構築した文章を互いに比較、分析し、話し合い、精査することで、自身のグループの文章をより完成に近づける。

DaiGo氏の提案しているディクトグロスと、Wajnryb氏のディクトグロスとは微妙に違いがあるように、ディクトグロスには様々なバリエーションが考えられます。自分のニーズに合わせて、自分が伸ばしたい分野の教材(素材)を使うといいと思います。日常会話能力向上のためなら映画のシーンを、状況説明能力や意見陳述能力向上のためなら英検2次テスト問題等のストーリーが簡潔にまとまった素材を使ってみるのもいいのではないのでしょうか。

ただですね…、やっぱり、効果的な勉強法はある意味ではつらい勉強法になってしまいますよね。効果があるのは、インプット中心ではなく、脳にとってハードな「想起」を利用したアウトプット中心の学習…。理屈はわかるけれど、もう少しハードルの低いものはないの? という方。DaiGo氏のオススメは、スマホアプリを使った学習法で、まずは学習開始のハードルを下げましょう、とのこと。そのスマホアプリの中で

も特にオススメなのがTEDICTというTEDを素材にしたディクテーションをするためのアプリです。ご存知のように、ディクテーションというのは、聞き取った英語を書き取るという、世界的に広く使われている英語の勉強法です。リスニングの強化はもちろん、ライティングやスピーキングの向上にも効果があるとされています。

このTEDICT、TEDの動画を視聴しながら聞き取った英語を入力していくのですが、ディクテーションが間違っていると先に進めないようになっていきます。正しく聞き取り、書き取れるようになるまで、繰り返し練習できるのです(pg. 177-178)。当校でも「21st CENTURY READING」というTED TALKSを素材にした教材を使っています。英語でのディスカッションが大学の必須科目なのでという大学生や、プレゼンテーション力をつけたい社会人の方にオススメですよ。

さて、堅い話はこれくらいにして、年末の忙しい中でも、読めばホッとできる…、そんな小説をご案内したいと思います。

1冊目は、大山淳子著『猫弁 天才百瀬とやっかいな依頼

長浜浩明 著

日本の誕生

皇室と日本人のルーツ

御代替わり 令和のいまこそ知りたい日本建国
最新科学が明らかにした
「神武東征」はあった、
そして、「日本書紀」には
真実が書かれていた
科学が証明した日本の古代史

は確実に実在したこと、神武東征も実際にあったこと、果ては日本人のルーツについても、最新科学の研究でかなり正確にわかってきた、というのです。実際に反論も沢山あります。古代史には諸説あるし、神武天皇の崩御は『日本書紀』では127歳、『古事記』に至っては137歳でしょう? そんなの神話に過ぎないでしょ。。。というものです。しかしその謎を解く鍵が、シナの文献に残されているそうなのです(pg. 128)。南朝・宋の歴史家、裴松之(はいしょうし.378-451年)は三国志に注を書き加え増補しました。その中に、魏志倭人伝に載録されていない次の注がある、そうです。

其俗 不知正歳四時 但記 春耕秋収 為 年紀

これは「倭人は歳の数え方を知らない。ただ春の耕作と秋の収穫を持って年季としている」という意味です。「年紀」とは歳の数え方で、この頃、倭人に接したシナ人は「倭人は1年を2年に数えていた」と書き残しているのです(以下、これを「春秋年」と表します)。こう考えると、127歳。。。というのも理解できてくるわけですね。実際に長浜氏が計算をしたところ、神武天皇即位は紀元前660年ではなく紀元前70年。崩御は紀元前33年(神武天皇、63.5歳)。理解できる範囲に収まりました。皇紀とは、春秋年と西暦を同一線上に並べて計算したものだったのです。でも逆に、昔の日本人は真面目で頑なだったんだなあ…と感心してしまいます。なぜなら、127歳って、ねえ。。。疑われるでしょ??? それでも真面目に、春秋年で計算されている場合は正直に書き、西暦に従って書く場合はそのまま正直に書き記す。なぜって、受け継いできた資料にそう書いてあるから。生命科学的に辻褃が合わなかつたら、「改ざんはできぬ!!!」という具合に、記したんでしょうかね。まだまだ、びっくりするような発見がこの本には書いてあるのですが、項目だけでも少しご案内してみます。

- ・旧石器時代、韓半島から日本にヒトは来なかった。
 - ・韓半島には、BC.5000年頃から日本から移り住んだ人が住んでいた。
 - ・新羅の始祖の赫居世は、倭人だった。
- いかがでしたか? なんとなく気持ちが引き締まる年末年始に古代に想いを馳せてみるのも良いかもしれませんよ。 まとめ小林義和

Rie's English Column

再び登場しましたスタッフのRieです。さて、今日のEnglish Columnの内容は”Catch up”です。Catchというのは「とらえる、捕まえる、(情報を) 得る、(意味を) 理解する」など沢山意味があります。そしてこの”Catch up”も様々な状況で使えたりします。

まずは「追いつく」という意味がありますね。今出かけようとしている時に、ちょっと自分が遅れをとってしまい、「先に行行って! すぐ追いつくから!」みたいな時ってありますよね?

“Go ahead. I’ll catch up to(with) you soon!”

“You are running so fast! I can’t catch up with you!”

こちらはマラソンとかで友人と一緒に走ってたはずが、実は友人が速くて、「ついていけない!」みたいな感じですね。

“I took a long holiday, so there was so much to catch up with when I went(came) back to work.” 「長い休暇を取ってしまったので戻った時に取り戻す仕事がたくさんあった。」等々、

Tomorrow is my day off, so I’ll catch up on some sleep.

「明日はお休みなので、寝溜め(寝不足を解消)します。」

Since we hadn’t seen each other for a long time, my friend and I had a lot to catch up. ここでのcatch upはしばらく会ってなかった友人とお互いの近況について知らない話が沢山ある。という意味です。(展示会での今回の私がこの状態でした。)

その他、**Let’s catch up soon!** (近いうちに会いましょう!) とか

“See you later!”(ではまた~!)の代わりに **“Catch you later!”**と言う方も多くいますね。イギリス人が多いとの情報がありますがカナダでも結構聞いたような気がします。それでは皆さん、この辺で、、、”Catch you later!” Rie